

第3章 本県の最近の取組

豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくために、私たちは持続可能な社会の実現に向け、循環型社会の形成に向けた計画や技術開発を通じ、社会経済システムを変えていく取組を始めましたが、環境問題を自分たち一人ひとりの問題として捉え、自らのライフスタイルや事業活動を環境という視点から見つめ直し、環境への負荷を最小限にするよう努力を払っていく必要があります。

また、自然環境の保全に加えて、損なわれた自然を再生することも重要な取組です。自然再生に当たっては、不可逆的な影響をもたらさないよう見直しも視野に入れた予防的態度のもと、少しずつ手を加え、自然の変化を調べて、計画を手直しする順応的管理を行うこと、さらに、その推進に当たっては、地域住民との合意形成のもと行うことが大切です。

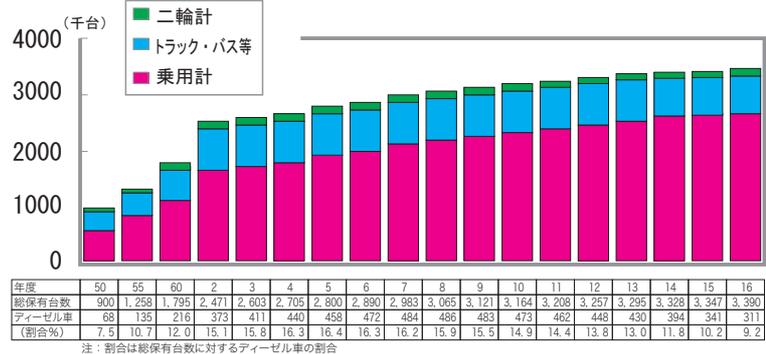
県では、このような取組がひろがっていくよう、県民・NPO等との協働の場の拡充、エコマインドの醸成、草の根活動を推進する人づくりなど、県民参加に向けた取組を進めています。

【空では…】

〔道路沿道の大気汚染〕

県内の自動車保有台数は16年度末に約339万台と増加傾向にあり、そのうちディーゼル自動車は31万台と約9%を占めています。自動車の増加に伴い自動車排出ガスによる大気汚染が問題となっていますが、特にディーゼル自動車から排出される粒子状物質は、発がん性や気管支ぜん息など人の健康への影響が懸念されています。

自動車保有台数の推移



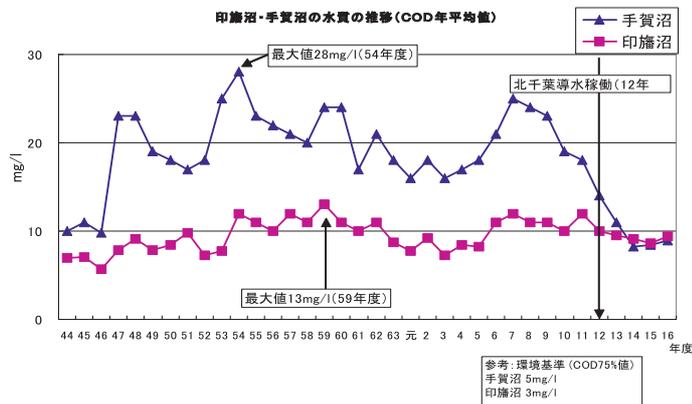
【水では…】

〔印旛沼・手賀沼の水質汚濁〕

手賀沼は、下水道整備等の浄化対策の推進や北千葉導水事業の浄化用水の注入により、水質は大幅に改善され、13年度には27年連続の全国湖沼水質ワースト1から脱却することができ、16年度はワースト4位でした。印旛沼についても、下水道整備などの各種浄化対策を進めています。水質はほぼ横ばいで推移しており、16年度は湖沼水質全国ワースト3位、水道水源となっている湖沼ではワースト1位となっています。また、両湖沼とも環境基準は未達成の状況が続いています。



手賀沼の風景



〔森林の減少・里山の荒廃〕

荒廃が進む里山



二酸化炭素の吸収源、環境教育の場、木材の供給源、山地災害の防止、水源のかん養等の多面的機能を有する森林は、毎年減少し続け、この30年間に約2万ヘクタールが消失しました。また、多くの野生生物を育む里山は、生活様式の変化、農林業活動の停滞等から放置され、タケ、ササ等の侵入により荒廃するケースが増加しています。さらに、県内各地で、生態系を攪乱し、農林水産業に被害を与えたり、人の生命・身体にとって危険となることがある外来種の生息生育が確認されています。



印旛沼流域で繁殖が確認されたカミツキガメとその卵

〔産業廃棄物の不法投棄〕

首都圏にあって交通の便が良く、谷間や土砂採取場跡地が多く存在するため、不法投棄され易い環境にあります。

組織的大規模な不法投棄は影をひそめ、小規模捨て逃げ型の不法投棄が多発していますが、件数は横ばいの状況です。

産業廃棄物の不法投棄現場



木くずチップの不適正保管による火災現場



硫酸ピッチ入りドラム缶の不法投棄現場